

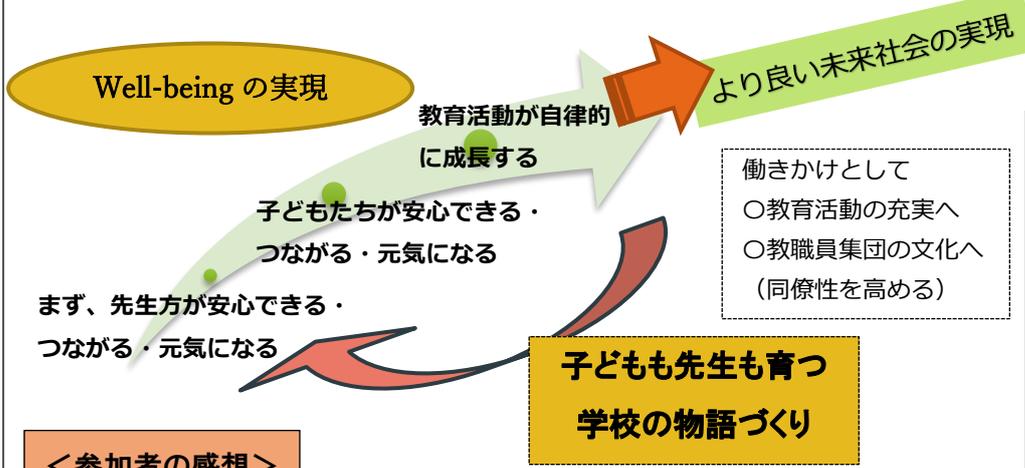
第1回学力担当者会議を開催！

2022.6 亀岡市教育委員会

講演 子どもと先生方のウェルビーイング (Well-Being) を目指して

～学力は必ず後からついてくる～

講師 京都教育大学大学院連合教職実践研究科 教授 佐古 清 氏



生徒エージェンシー
Student agency

変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力

↑

教師がエージェンシーを発揮
※OECD ラーニング・コンパス 2030 より

<参加者の感想>

学校づくりや学力育成について、改めて自分に問い直す機会となりました。学校づくりにおいては、教職員集団の同僚性を高める雰囲気づくりを進める立場として、まずは自分自身が楽しみながら、先生方とのコミュにケーションを図りながら取り組むことが大切だと思いました。学力育成については、多様な学びを進めるための校内研修のあり方を考えていこうと思いました。どちらにしても、自らが主体となって変化を起こす意志や姿勢（エージェンシー）を発揮し、自らが動くことで先生方へのよき刺激となるよう活動していきたいと思いました。ありがとうございました。

学校づくりで大事にしたいことという点で、成果のフィードバックということが心に残った。成果というと、とても変化を期待してしまうが、教職員に対しても児童に対しても、小さな変化を成果と捉え、自己肯定感を高めていくことが、より教育活動を充実させ、安心できる学校づくりにつながる感じた。

学力育成のビジョンを学校内で共有することの重要性和、教職員間のコミュニケーション（子供の様子、指導の方針、学習指導の方向性や工夫など）の大切さを改めて感じました。同時に、生徒同士の心のつながりのある学習集団を学級経営の柱に位置づけていくことも、全て、学校づくりにつながり、生徒の学力向上につながっていくことを感じました。このような視点をこれからも大切にしていきたいです。

令和4年度全国学力・学習状況調査問題

<分析・協議から>

○他教科にも活かすべき授業改善の視点

☆国語（小6、中3）の分析から

問題に込められたメッセージ

- ・文章（課題）に対して自分の意見を持つ瞬発力。
- ・常に自分の意見を持つ習慣化・多様な考え方を交流し合う。
- ・完結にまとめる力が必要。・全体の問題把握。
- ・文章の中で既習の漢字を正しく使う。
- ・表現の工夫や文章構成（展開）を取り上げる授業へ。

☆算数・数学（小6、中3）の分析から

- ・問題を最後まで読み、場面を理解（イメージ）する。
- ・図や言葉で補足し整理する。
- ・難しい問題を解くことが楽しめる、知的好奇心をくすぐる。
- ・生活場面に通じるゴールを設定する
- ・SDGsの視点。・グラフや資料を活用して考えを説明する。

<感想から>

全国学調については、問題を俯瞰して見ることの大切さを感じました。ただ問題を解くだけでなく、その問いに込められた意図を掴み、それをどう授業に活かしていくか、目の前の児童・生徒に付けるべき力は何かということを考える必要があると感じました。

どの教科であっても、相手意識を持つことというものは同じであるということ。常に相手意識を持って学習する。単元の目標もそういう内容のもので子どもの主体性をより高められる。算数では、基本の中にもう一捻りの内容を扱うことも必要ではないかと考えました。

実際に問題を解くことで、授業改善の視点に気付くことができる。校内研修でも授業改善の視点を伝えるだけでなく、校内の先生方と共に考えるスタイルを取り入れたい。